神戸新聞 2023年12月12日 火曜日 面名 タ一 タ4 1ページ

がん、カードゲームで学ぶ

神戸薬科大助手と神大付属中校生制作

治療、緩和ケア、予防… テーマ別に手札で解説

がんの基礎知識や予防法などを学ぶカードゲーム「メディカルテット」を、がん教育に取り組む神戸薬科大の横山郁子助手(60)が制作した。同大と連携する神戸大付属中等教育学校（神戸市東灘区）の生徒たちが、原案やイラストを担った。がん教育に取り組む学校では講師の選定や経費確保などの課題もあり、横山さんは「楽しみながら学べるだけでなく、学校現場の課題解消にもつなげたい」と期待を寄せる。

（勝浦美香）

「がん患者の『精神的苦痛』についてのカードを持ってますか？」「持っていません！」

先月上旬、同市東灘区の市立御影中学校3年生の教室に元気な声が響いた。この日、完成したばかりのメディカルテットのお披露目を兼ね、横山さんらの研究チームが特別授業をしていた。生徒たちはカラフルに縁取られた手持ちのカードを見つめ、他のプレーヤーの持ち札を懸命に推測する。

完成したカードゲーム「メディカルテット」で遊ぶ御影中の3年生＝神戸市東灘区御影中町5

メディカルテットは、既存のカード遊び「カルテット」にがんの知識を盛り込んだオリジナルゲームだ。日本人に多いがん▽治療方法▽治療による副作用▽緩和ケア▽予防―など8種類のテーマがあり、それぞれ異なる内容になっている。他プレーヤーが持つ手札を推測し、同じテーマのカード4枚をより多くそろえた人が勝ちというルールだ。

ゲームの最後には、獲得したカードの意味を確認していく。「がん患者は生きる意味を考え、つらくなることがある。よりそって話を聞いてあげよう」「小児がんは大人のがんと異なり、生活習慣に遠因はありません」。生徒らは一つ一つ読み上げ、うなずいたり、驚いたりしていた。

永田芽生さん(14)は「2人に1人かかるほど身近な病気だなんて。両親のどちらかがんになるかもしれないので、検診を受けるよう伝えたい」。高橋将星さん(14)も「怖いイメージがあったけど、早期に発見、治療できれば死亡率が低いことが分かって安心した」と話した。

◇

このメディカルテットは、横山さんが協力した神戸大付属中等教育学校でのがん教育が基になっている。

イラスト入りで、がんの基礎知識などを分かりやすく学べる

神戸薬科大の横山郁子助手

中高一貫教育の同校では、2016年に入学した1年生約200人が4年生（高校1年生）になるまで、がん患者の体験談や小児がんを治療する医師の話を聞いたり、病理医とがん細胞を顕微鏡で観察したりと、多様な視点から学びを深めた。

5年生（高校2年生）の時には、これまでの授業の中から「下の世代にも知ってもらいたい基礎知識」を選別。学習教材として使えるカードの原案を作成した。横山さんが監修し、イラストは同校美術部の現役生徒が手がけた。

当時の生徒で、現在神戸大2年の石川遥千さん(20)は、ゲームの完成に「自分たちの学びが形として残り、次世代に引き継がれるのはうれしい」と喜ぶ。

学校でのがん教育は、18年に改定された「がん対策推進基本計画」に沿って始まった。文部科学省は外部講師を活用したがん教育を推進しているが、同省の調査では、外部講師を招いた授業を実施できた学校は、22年度で小中高合わせてわずか11・4％。兵庫県は5・1％にとどまっている。

横山さんは「講師が見つからない場合などに、メディカルテットを活用してほしい。講演を聴いて終わりではなく、ゲームで繰り返し遊ぶことで教育効果も高められる」と指摘。今後、商品化も検討しながら、学校現場への普及を目指す。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。